

留学先国名 : 韓国

留学先学校名 : 梨花女子大学

留学期間 : 平成 28 年 8 月 25 日 ~ 平成 29 年 6 月 19 日

この留学の大きな成果の一つに韓国語の能力の向上があります。それに伴い、「言葉」の大切な役割についても知ることができました。韓国語で韓国語を習うということが特に新鮮な経験でした。韓国語の先生たちが級ごとに話す速度や用いる語彙を変えている点と、教科書に載っている場面や例文がまさに生活の一場面である点に、日本における英語学習との違いがはっきりとありました。留学生同士で韓国語と一緒に学習する中で共通言語として用い、冗談を言い合って笑ったり、お互いに言語を身につける難しさを共有したり、思い出もたくさんできました。これは英語の学習にも言えることですが、言語学習には突き詰めるとゴールがありません。また、完璧を追求しすぎると逆に「伝える」という大事な目的を忘れてしまいます。留学生の中に韓国人のように話すことができなくて自信を無くしている友人がいましたが、言葉はかっこよく完璧に話すのが正解なのではなく、かっこ悪くても相手に伝えることができ初めて言葉としての機能が果たされるのだとこの留学を通して感じました。留学の最後の月、私はこれまで英語でコミュニケーションをとっていた韓国人の友人と韓国語で話すことができるようになっていました。その子は別れ際に「英語で話すよりも韓国語で話したほうが本当に面白いね。」と言いました。英語が世界共通語だから英語さえ勉強していれば十分という認識もありますが、英語では伝えることができないこともきっとあるのだと感じました。その国の人をよく知るためには、まずその国の言葉を知らなければなりません。言葉は人をつないでいるのだと実感しました。日本語を話せないルームメイトが別れの手紙を日本語で書いてくれた時、他の言葉では伝わらない温かさを感じたことがあります。英語以外の言語を習得するのがこんなに素敵なことだと留学するまで知りませんでした。

留学を通して本当に様々な人たちと交流しましたが、キリスト教徒の方々との交流が印象的でした。日本に比べてキリスト教徒が多いのも韓国の特徴です。私の韓国人の好きな点の一つに「熱意がある」ということがあります。韓国の方々は感情的で、大きなデモから小さな日常の行動までとにかく日本人にはない熱気があります。教会での祈りの仕方も韓国人ならではの、歌を歌い、ダンスを踊り、神様に届けとばかりに自分の祈りを大きく声に出していました。この感情的な部分を私は一年を通して好きになりました。就職難や受験戦争など、韓国は日本に比べてストレスが多い社会の印象がありますが、韓国に住んでいる方々のパワー、強さはそのような社会でも全く埋もれていません。

私の留学の目標の一つに「緊張した日韓関係での深い相互理解」の手がかりを自分なりに見つけるということがありました。普段はたくさんの韓国人の友達とたわいもない話で笑いあっているものの、日本と韓国の暗い歴史や緊張した関係を見無視することはできません。色々な博物館を訪れて個人的に感じたのは、まだまだ日韓の対話が不十分であることと、歴史教育にずれがあるということです。戦争と女性の人権博物館を訪れた際、元慰安婦の方々の声が日本まで全然届いていないような印象を受けました。韓国の

過熱するメディアや国同士の協定を含め、長引く問題の複雑さを思い知りました。私は高校で日本史と世界史を両方専攻して詳しく学んだにもかかわらず、韓国の博物館で学ぶ歴史にはまるで習った覚えがないようなことも多くありました。違った観点から歴史を見るとこんなにも違いがあるのかと驚きもありました。韓国の方が通訳をして説明してくださったのでなおさらでした。歴史認識の違いはこのような歴史教育の違いが根源であり、いくら日本と韓国の政府が話し合っ解決したところでそれぞれの教育を受けている国民が納得いかないのは無理もないことだと思います。このような大きな問題を個人レベルで解決することは不可能ですが、まず第一歩として日本の若い世代がもっと関心を持つことが大切だと感じました。授業では慰安婦と韓国のナショナリズムについて最終論文も書きました。授業を通し日韓関係だけではなく、外交の視点から世界やアジアの中の日本を客観的に見ることができたのもとてもいい経験でした。

留学の後半から、日本語教室でボランティア活動もしました。大学では出会うことのできない様々な世代の方と交流ができ、いい経験になりました。交流を通し、日本に対するイメージや日本へ旅行した際の思い出など、韓国人の方の目で見えた日本の印象を知る機会になるとともに、生徒の方々が日本語の勉強を楽しんでいる姿を見ると、自分自身が平日に交換留学生として韓国語を勉強する中でしんどい時も励まされ一緒に頑張れました。また、韓国の方が日本語を勉強するという自分とは逆の過程を観察することで、日本語の何が難しいのか、普段、無意識に話している日本語はどのような構造になっているのか、日本語と韓国語はどのような部分が違うのかを感じることもできました。最後の授業には私が主導になって進める機会を設けて下さり、貴重な体験をさせていただきました。百人一首の自然描写に隠れた素敵な意味を、中級の生徒の方たちにもわかるよう、日本語で簡単な訳と解釈を作成し、自分の伝えたかった日本文化の一部を韓国の方に伝えることができました。

韓国という国は日本から最も近くて遠い国だと言われています。そのような身近でありながら、関係が複雑な国に長期間滞在し、多くの人を通してその国を知り、様々な経験をしたことが一番の財産です。将来は韓国の一理解者として、日本で報道に関わる職業につき、日韓関係の改善に貢献したいと思っています。それは留学を通して情報の大切さを実感したことにあります。偏見や誤解のない情報こそが両国民の亀裂を無くし、対話を生み、国同士の関係をよりよくできるのだと思いました。

(これから留学する人たちへ)

留学で一番大切なことは「なぜ」留学をするのか、留学を通して「なに」をしたいのか、留学を将来「どう」活かすのか、など常に自分の中に指標を持つことです。留学する人によってその中身は大きく異なります。留学の前からしっかりした指標を持つことで、留学中に大変なことがあっても自分自身のゴールを見失わず頑張り続けることができると思います。留学を通して色々な刺激を受け、考え方が変わることもあります。留学前に思い描いていた道をそれることもあります。しかし、その都度立ち止まり、自分を見つめ直し、新たに目標を設定することを繰り返せば、留学が終わった時に後悔することはありません。